




# 審査結果報告書

平成 26 年 2 月 4 日

主 査 氏 名 三 枝 信 

副 査 氏 名 恩 田 貴 彦 

副 査 氏 名 岩 村 正 嗣 

副 査 氏 名 西 山 和 利 

1. 申請者氏名 : DM10027 西宮 洋史

2. 論文テーマ :

Prognostic Significance of Ki-67 in Chemotherapy-naive Breast Cancer Patients with 10-year Follow-up

(化学療法未治療原発性乳癌手術症例の Ki-67 と術後 10 年予後予測に対する検討)

3. 論文審査結果 :

近年、乳癌は増加の一途を辿っており、女性での罹患率は大腸癌を抜いて 1 位となっている。2011 年、St.Gallen コンセンサスミーティングで、Ki-67 蛋白発現が、新しい乳癌の分類として導入され、化学療法導入の指標となった。申請者は、10 年間予後が判明している術前治療を受けていない乳癌患者において、病理学的因子および分子生物学的因子と再発、予後の関連、および Ki-67 蛋白発現の臨床的意義を含めて検討した。その結果、10 年全生存率において、Ki-67 蛋白陽性、術前 CEA 高知群、ホルモン受容体陰性群、若年群などが、独立した予後因子であった。また、Ki-67 蛋白発現は、進行病期別再発・予後や Intrinsic subtype 別の再発・予後にも関係していた。以上から、乳癌における Ki-67 蛋白発現の予後に関する重要性が明らかになった。公開審査では、申請者は主論文の内容について約 20 分にわたり詳細な発表を行い、その後の審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。質疑内容の主な点は、①術後再発後の生存率の検討について、②Ki-67 蛋白発現に注目した理由、③Ki-67 蛋白発現は術後の治療方針決定にどのように影響するか、④ホルモンレセプター発現との関連性について、などであった。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。